

ジュニアスポーツに係るアンケート結果

令和4年3月
鳥取県スポーツ課、(公財)鳥取県スポーツ協会

1 アンケート概要

- (1) 対 象 県内スポーツ少年団(165団体)及び
競技団体クラブ(20競技24チーム)
- (2) 内 容 クラブ指導者向けアンケート、クラブ生保護者向けアンケート
※詳細は別紙1・2を参照
- (3) 実施期間 令和4年1月28日(金)～2月22日(火)
- (4) 回答方法 QRコード又はインターネットアドレスでアンケート票を読み取り、
携帯電話・パソコン等で電子フォームに入力し回答
- (5) 回 答 数 クラブ指導者向けアンケート : 58件
クラブ生保護者向けアンケート : 347件

2 結果概要

○指導者向けアンケート …P2

- ・多くの指導者が何らかの公認資格を有し、指導に当たっている。
- ・週2～3回程度の活動、1回当たり2時間程度の活動が最も多く、休息や水分・塩分の確保を心がける指導者も増えてきた。
- ・マルチスポーツへの理解、多くの子どもに機会を設ける等の考え方は浸透しているが、専門競技を選択する時期については意見が割れた。
- ・指導法の習得は、経験則や他の指導者の実践内容が中心で、研修会・講習会の活用は比較的少数派。
- ・保護者の過度な介入に苦勞している声もある。

○保護者向けアンケート …P8

- ・週2～3回程度の活動、1回当たり2時間程度の活動が最も多い。
- ・ケガは足首、膝、肘に集中。準備運動不足、練習過多、強化不足等に起因するとの意見あり。
- ・マルチスポーツへの理解、多くの子どもに機会を設ける等の考え方は浸透しているが、専門競技を選択する時期については意見が割れた。
- ・指導者の指導態度や長時間練習、保護者の負担に関する不満の声もある。

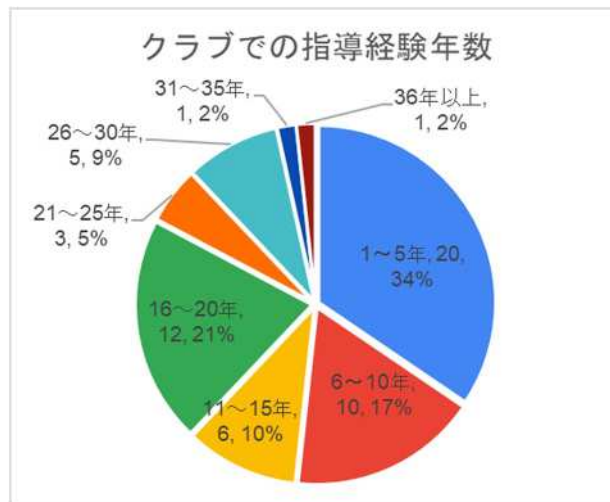
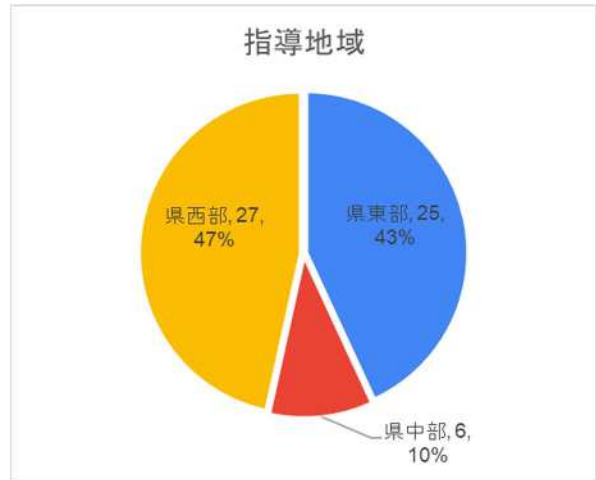
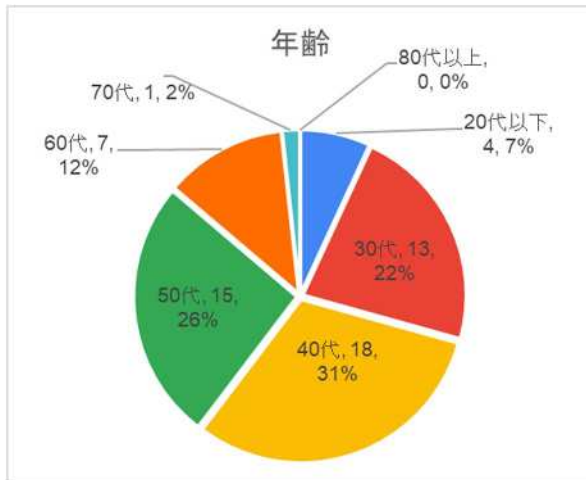
○参考

- ・(別紙1) 指導者向けアンケート票 …P15
- ・(別紙2) 保護者向けアンケート票 …P17

【指導者向けアンケート】

(1) 指導者の年齢、(2) 指導地域、(3) クラブでの指導経験年数

- ・指導者の中心層は、30～50代。
- ・指導経験年数は、1～5年の方が最も多く、21年以上の指導者は比較的少ない。



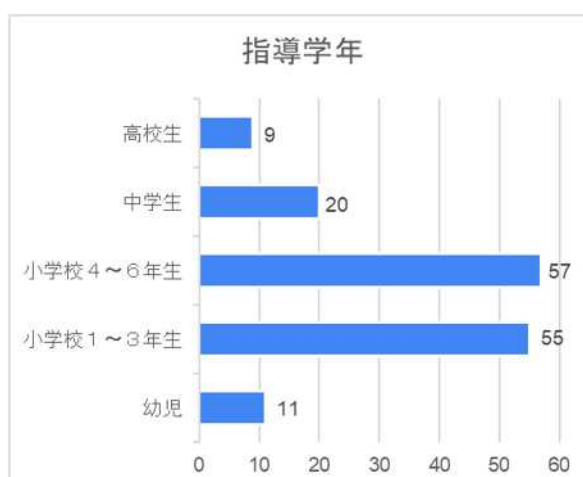
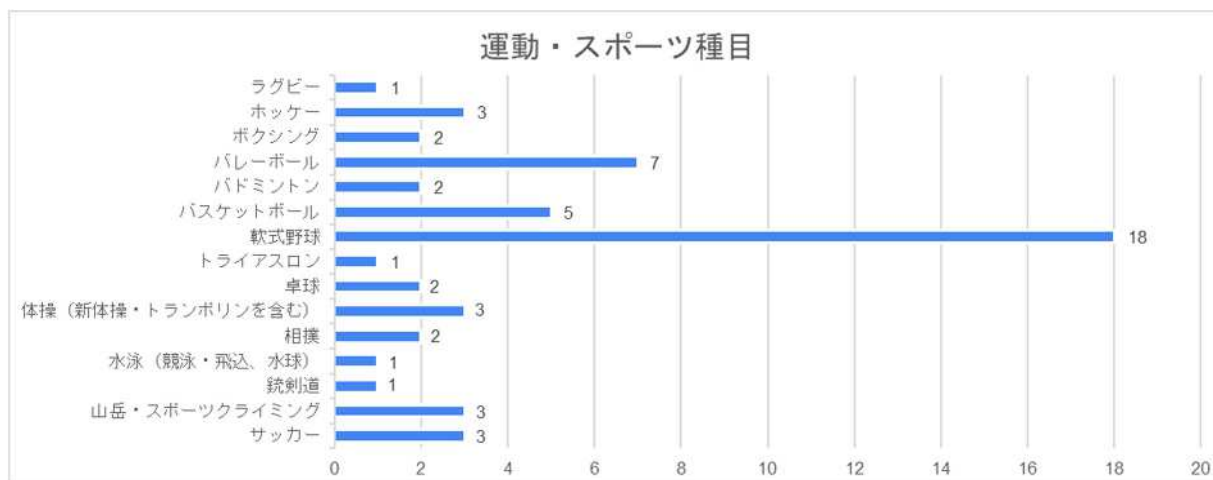
(4) 指導者資格（日本スポーツ協会、各中央競技団体）、教員免許

- ・指導者の約8割が、何らかの公式資格を保有している。
 - ・指導者の約2割が、教員免許を保有している。
- (教員免許を有し且つ公式資格を有する指導者は10人中9人。)

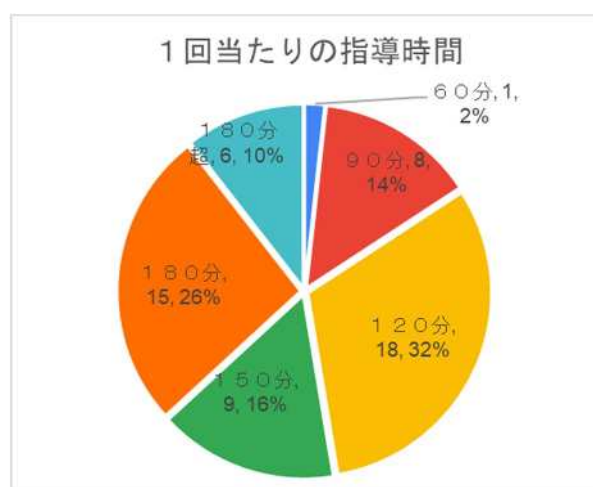
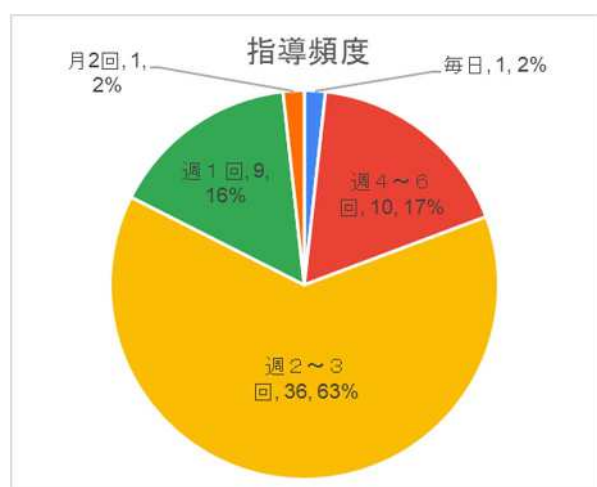


(5) 指導種目、指導学年、指導頻度・時間

- ・バレーボール、軟式野球の指導者から多く回答をいただいている。
- ・回答者の中心層は小学生スポーツ指導者。

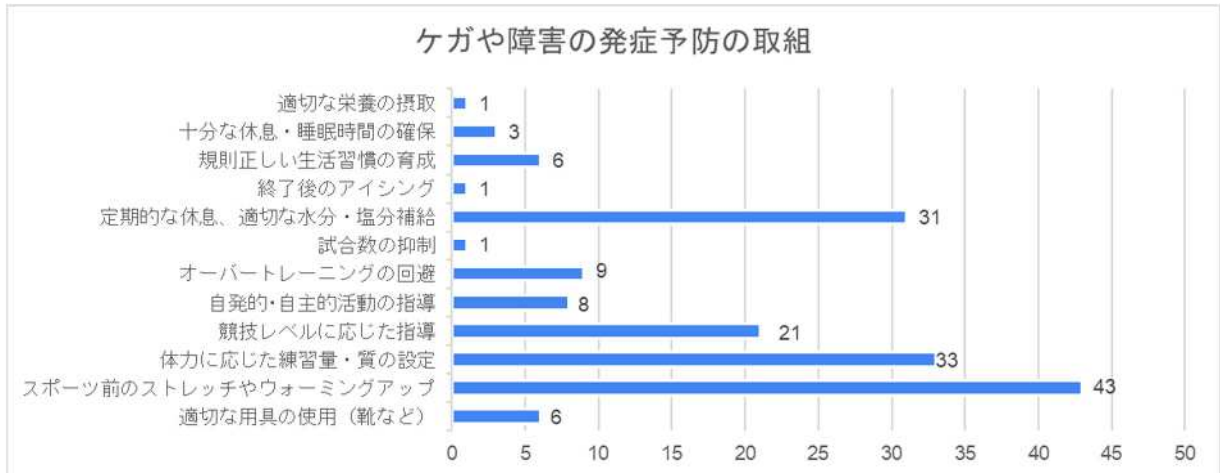


- ・週2～3回の指導が6割を占め、次いで週1回、週4～6回が続く。
- ・1回あたりでは2時間が最も多く、1時間半～3時間で9割近くを占める。



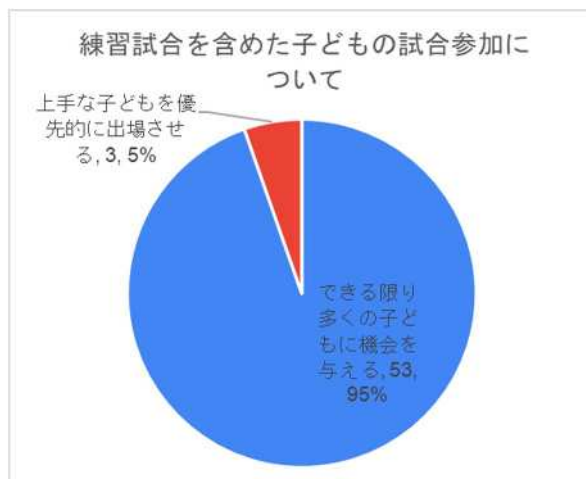
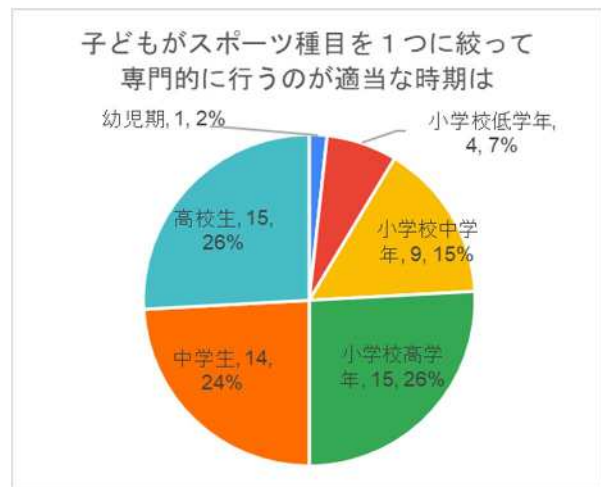
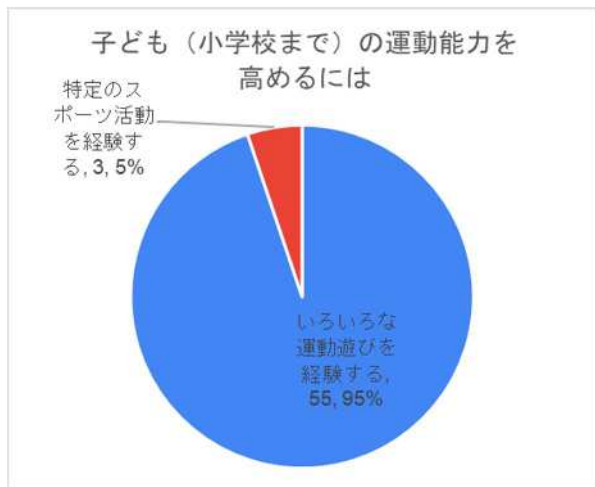
(6) ケガや障害の発症予防に向けて取り組まれている（指導されている）こと

- ・多くの指導者がストレッチやウォーミングアップ、適切な練習量・質の設定、休息と水分・塩分補給に留意しながら予防に努めている。



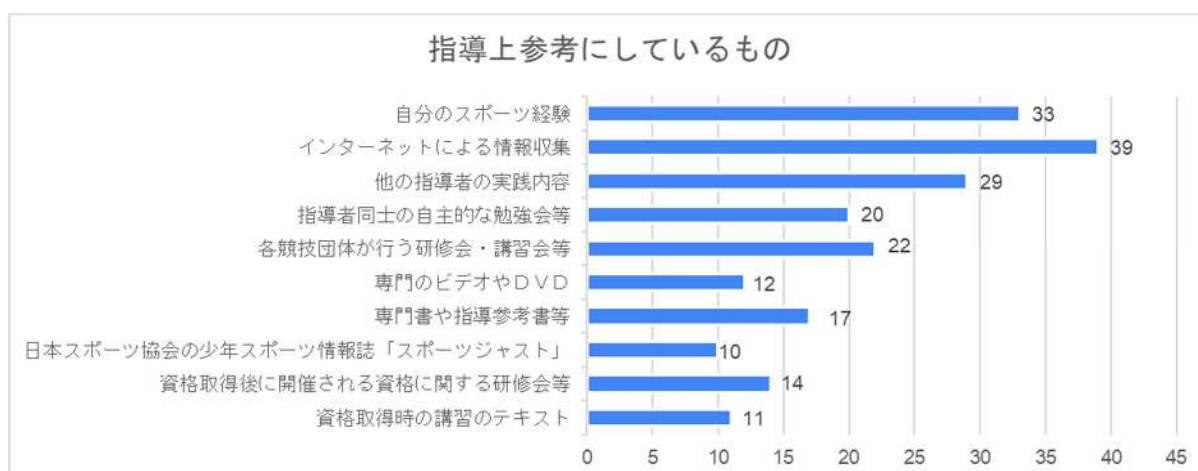
(7) 子どもの運動能力向上や運動指導についての考え

- ・9割以上の指導者が、小学生段階までは様々な運動遊びをすることが重要と考えている。
- ・子どもが種目を1つに絞る時期については意見が割れたが、小学校高学年以上とする回答が3/4を占め、年齢が小さくなるにつれ少数となっている。
- ・また、できるだけ多くの子どもたちに出場機会を作りたいとする指導者が9割以上を占める。



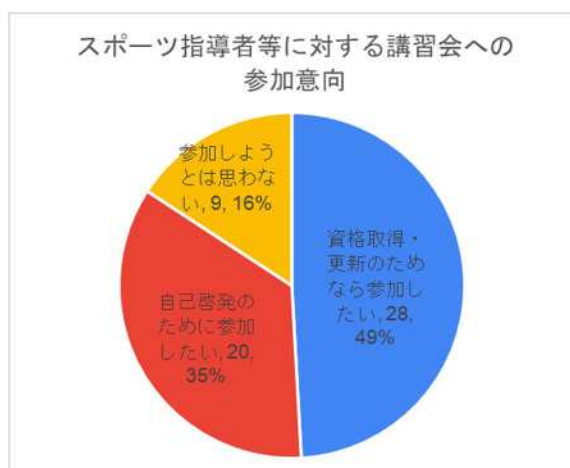
(8) 子どもにスポーツを指導する上で参考にしているもの

- ・インターネットが情報収集の中心となっている。自らのスポーツ経験や他の指導者の実践内容など、経験則を参考とする指導者が多い。
- ・研修会・講習会、専門書や参考書等で学ぶ指導者も一定数いる。



(9) スポーツ指導者等に対する講習会への参加意向

- ・8割を超える指導者が参加意向。
- 資格取得・更新といったきっかけが取得意欲を後押ししている。



(10) クラブの中で子どもたちを健全に育成していく上での課題

○クラブ運営

- ・参加人数が少ないと十分な練習が出来ない。メンバーの確保と出席率の向上が必要。
- ・活動場所の確保（専用グラウンドが1箇所しかなく狭い空間での活動となっている）
- ・子供の人数に対し指導者が少ない。（子供約30名に対し指導者1～2名）

○指導能力

- ・子供たちの見本となる行動・言動。子供目線の高さで見る。
- ・コミュニケーションの取り方(コーチや仲間同士。技術以外の指導を含む)
- ・練習時間長いと集中力に欠けるので、短時間での集中し楽しさと適度の緊張感を持たせた練習を主体とする。
- ・中学生になってから時間制限ばかり先走り、ウォーミングアップやクーリングダウンが疎かになっている。
- ・技術レベルの差もある中で、どの選手にも競技の魅力が感じられるようにプレーする機会を与えつつ、チームワークを向上させ、戦績を残すためには、どうすればよいかを常に考える。
- ・体罰をしない。質問に答えられるように雰囲気作りを大切にする。最後まで話を聞いてから対応する。
- ・支援を必要とする児童とのかかわり方。

○傷害防止

- ・学年にあった指導方法（指導要領）の構築
- ・体力・運動能力の低下に伴う怪我の防止。

○体力増進

- ・特定のスポーツスキルの向上よりも運動能力の向上を目的とし、自身で目標を定めるように促す。
- ・挨拶、礼儀などは勿論指導したいですがスポーツする楽しさを学んでほしいので沢山体を動かして楽しんでもらう事

○自発性の涵養

- ・人間力の向上も同時に進めていくことが重要。
- ・自分の事は自分です。自分自身で考える力を持つ。そしてそれを自分で言葉にしてみる。
- ・勝利至上主義ではなく、勝利を目指して指導することで困難な（できない）ことに対して逃げず取り組む考え方や実際の取り組みができるようにするための指導。

○社会性の涵養

- ・競技力向上だけでなく、まずは基本の挨拶をすること。
- ・スポーツを通じて、礼儀や仲間で動くことの大切さを学んでほしい。
- ・他の子供よりも少し上手に見える子供は、若干他者に対する思いやりに欠けることがあるので人に対する思いやりと感謝をきちんと伝えていくことが大切。
- ・コミュニケーション力の養成
- ・時々講義を取り入れて、人の話を聞く習慣をつけさせる。
- ・指導者は子どもたちに多様な価値観を与えつつ、自己選択・自己決定させ、自主的・自発的な活動になるように支援をしていくことが必要。
- ・試合に勝つ事だけにこだわらず出来た事の喜びを分かち合う。
- ・心の健康も大事。

○勝利至上主義との向き合い方

- ・勝利だけを求めない。将来性を考える。
- ・強さだけを追い求めるチームがいるから、楽しくする野球ではなく勝たないといけない、楽しくない野球になっている。
- ・大会がトーナメント制でなくリーグ戦であってほしい。
- ・スポーツ少年団にあっては個々のモチベーションの差をどう埋めていくか。

○保護者との関わり

- ・家庭との情報共有（体調、食事、睡眠等生活環境、学業他習い事との兼ね合い）
- ・子供達にもだが、保護者の理解がとても重要。小学生は、高校生などより家庭での時間が圧倒的に多い。保護者に努力の大切さ、規則正しい生活の大切さを理解して頂き、子供達に協力してもらえたら健全なクラブも出来る。私達指導者は、保護者の方ともコミュニケーションを多くとり、1人の子供の成長を手助けする立場にある。

(11) その他（ジュニアスポーツについてお気付きのこと）

○クラブ運営

- ・選手が少ないのにおとなの我が儘で合同チームを作れない。
- ・少年野球に関しては競技人口も減っており、学校単位でチームを組むのは難しくなってきました。低学年の時から体格も大きく違う6年生と一緒にやる事で野球に対しての恐怖心や結果も出にくくモチベーションにも繋がりにくいと思います。サッカーみたいに低学年以下の大会とかそういうのが必要だと思います。また、高学年でもチーム数を減らし、やりたいチームで出来る様にする事で同じ意識の子が集まりやすくする、指導者のレベルアップ(最近はお父さん監督・コーチが多過ぎてチームの方針の変化が年毎に変わるなど弊害が大きく感じる)にも繋がると思います。
- ・クラブチームの金銭的負担感。

○指導能力

- ・鳥取県は指導者レベルが低すぎる。子供の卒部と一緒に辞める指導者が多くて、統制の取れない指導が多い。

- ・楽しく、のびのび、子供の良いところを引き伸ばしてあげたい。そういう指導者が増えていけば、もっと良かなと思う。

○勝利至上主義との向き合い方

- ・結果を求めると活動日数が増え、子供・大人共に負担が増える。
- ・保護者、指導者の言動が目につくところがある。特に試合中、審判などにクレームを發する、子供たちに怒鳴るなど勝利主義を第一に考える行動がみられる。
- ・小学生は、勝利至上主義になってしまうと高校から上の年代でレベルアップが難しくなってくる。

○出場機会の確保

- ・もっともっとスポーツの魅力を選手たちに感じてほしい。そのためには、どの競技も一人一人にどれだけ基礎を身につけさせ、どれだけ補欠を減らして試合に出場する機会を与えられるかに尽きると思う。このことについて、指導者はチームや競技の垣根を越えて議論すべきだし、県や市、協会はもっとインシアチブを發揮すべきではないでしょうか。
- ・今、選抜で強く全国レベルまでという流れが強く感じます。もう少し運動が苦手な子供達にも楽しめる仕組みを作って欲しい。

○保護者との関わり方

- ・ご両親の過度な介入
- ・親の役目が大変というイメージをなくしたい
子供がやりたいことはなるべくさせてあげてほしい
- ・子供は母の考えがイコール自分の考えだと思ってしまい、自分で考える事をしない。
本当に危険な状況で、そのまま高校生になっても、まるで洗脳されているような状況に感じる。親に反抗しない子ほど、そうなる可能性も高い。親離れの前に子離れが必要。
また、母が同じ競技をしていて、自分が出来なかつたら夢を子供に託す、押し付ける、そんな状況も多々ある。先ず親から！！ということもよくある。

○マルチスポーツ経験

- ・鳥取県のみならずシングルスポートの取り組みがスポーツの価値を下げる原因になっている。
生涯スポーツを楽しみ健康で豊かな人生に取り組めるようにするためには幼少期にマルチスポーツを経験しておく必要がある。また、マルチスポーツをする上でもソフト面の充実が不十分である。あらゆるスポーツに関われるよう体育教員の免許をお持ちの方ががこのような取り組みをしてくださると有り難い。また指導者のレベルアップのための研修は最も重要なことである。指導者のレベルアップは鳥取県のスポーツ界にとっては最も重要なことと考えている。私も協力したいと思います。
- ・バスケットボール、サッカー等の低年齢化がひどく、色々かスポーツに触れる機会がなくなっていると思う。

○外部指導者の活用

- ・学校などへは、外部指導者の起用を進めてゆくことがジュニアスポーツ成長の一助となるのでは無いでしょうか。

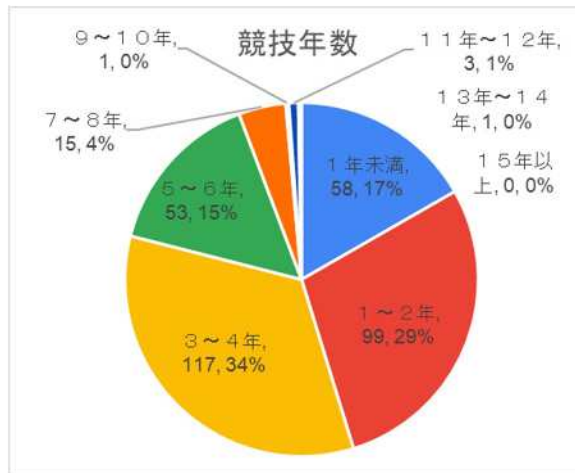
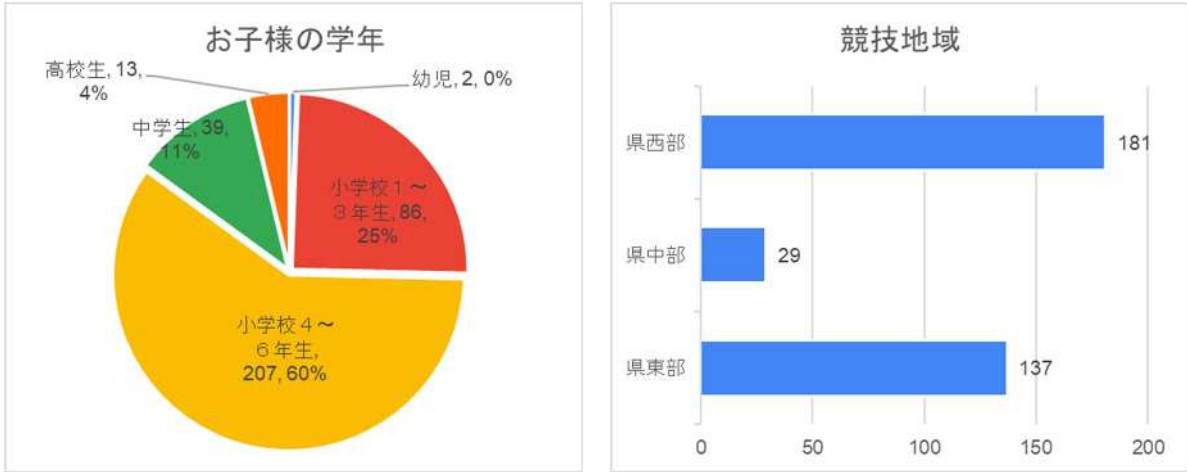
○コロナ対応

- ・コロナ禍での練習のあり方。練習が制限され部員の確保が困難になりつつある。

【保護者向けアンケート】

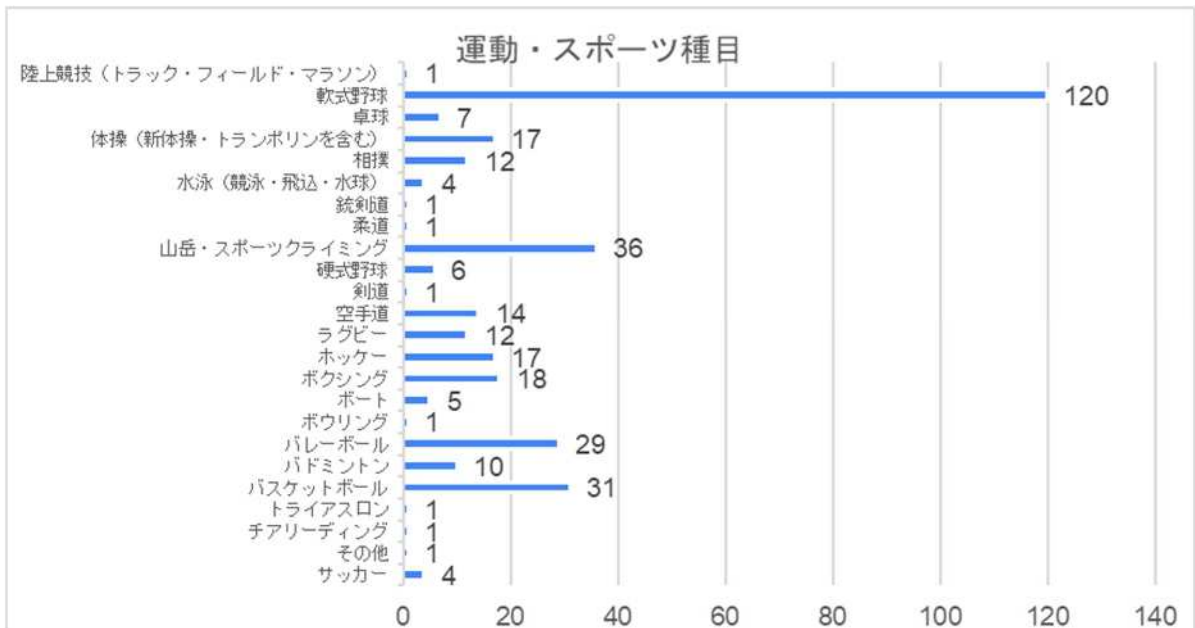
(1) 子どもの年齢、(2) 競技地域、(3) 競技年数

- ・ 4～6年生を中心に、小学生で85%の回答。
- ・ 競技年数は1～4年間で2/3を占める。
低年齢で競技を開始する子もいる。(軟式野球、バスケットボール等)

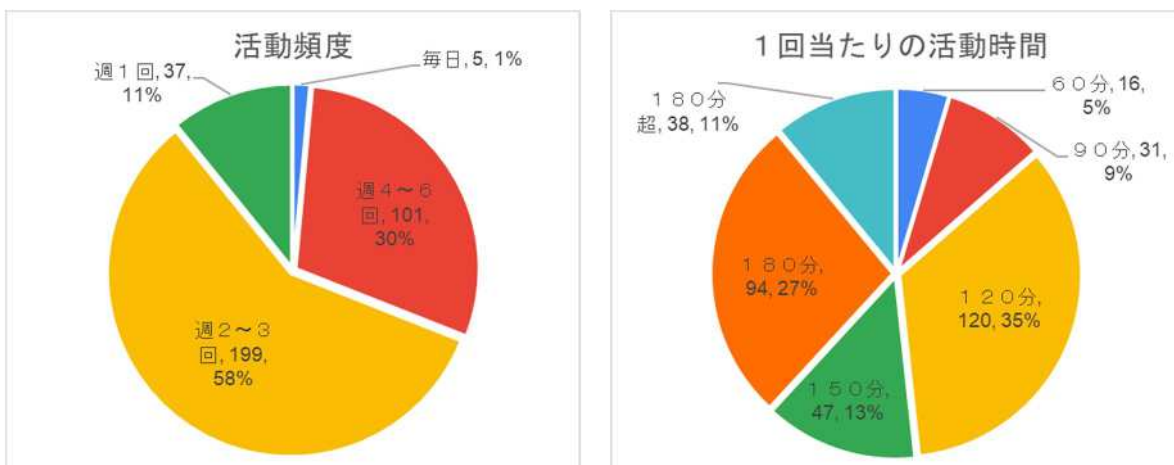


(4) 競技種目、練習頻度・時間

- ・ 軟式野球の保護者から多く回答をいただいている。

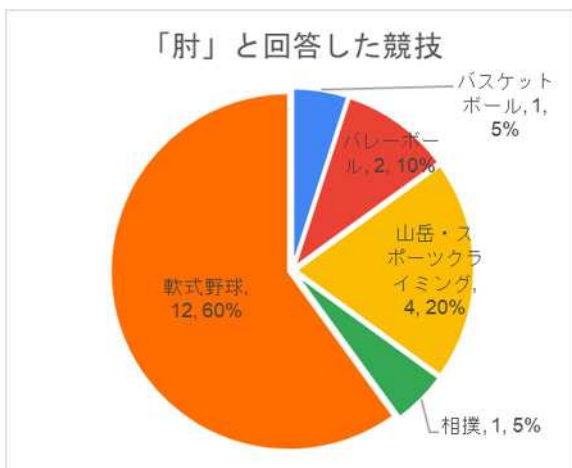
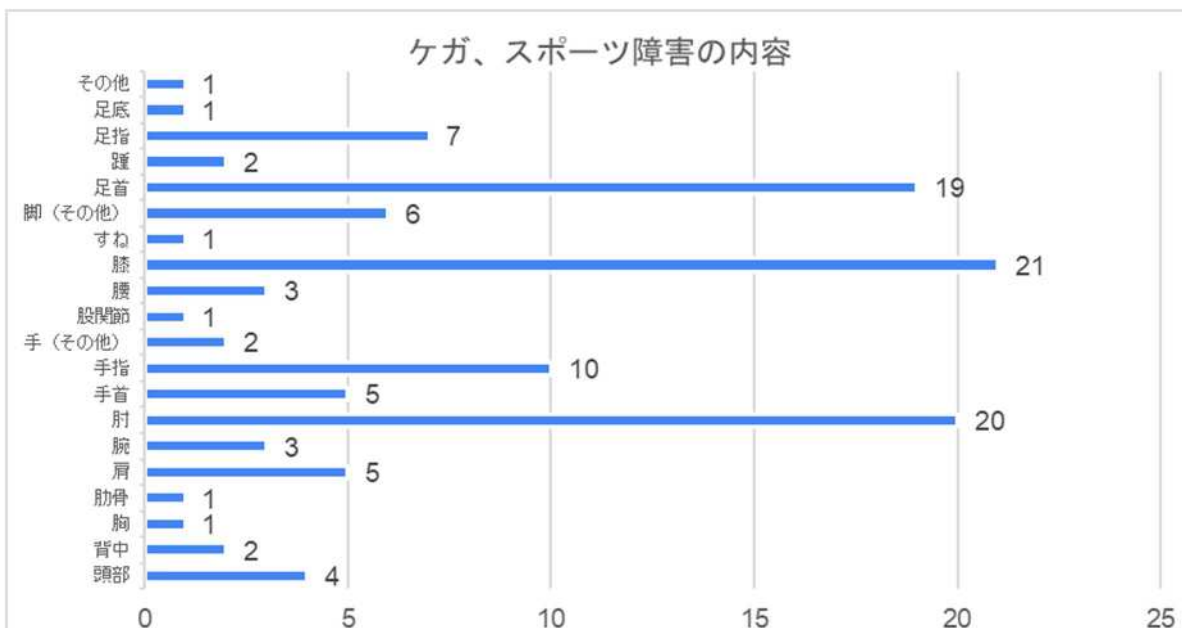


- ・活動頻度は週2～3回が約6割を占め、次いで週4～6回、週1回が続く。
- ・1回当たりの活動時間は2時間が最も多く、2時間～3時間で3/4を占める。



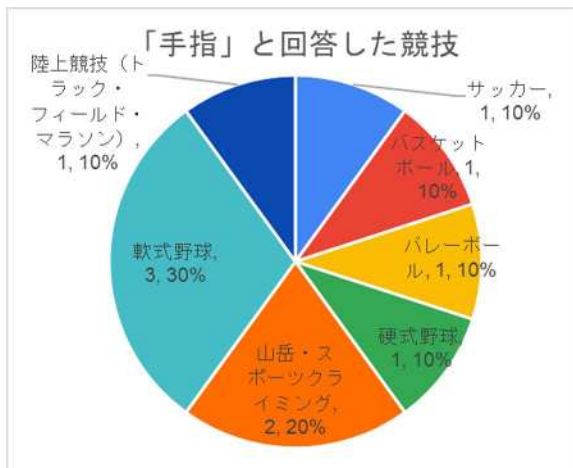
(5) ケガやスポーツ障害の内容

- ・部位は足首、膝、肘に集中。軟式野球は肘、バスケットボールは膝、山岳・スポーツクライミングは足首など、競技毎に相違がある。



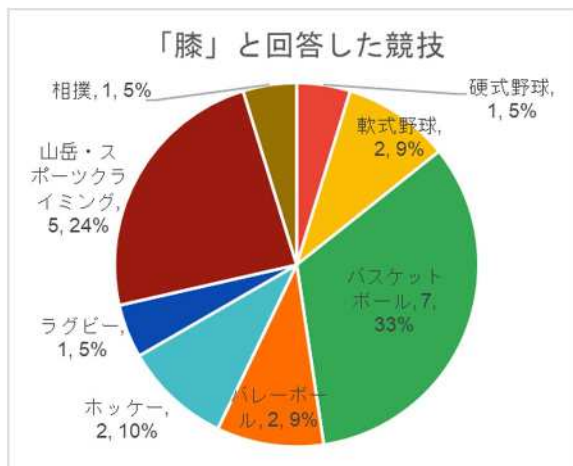
<原因>

- ・準備運動不足
- ・練習中・試合中の接触
- ・変な投げ方による負荷
- ・悪いフォームでの投球
- ・投球数が多かった
- ・練習過多



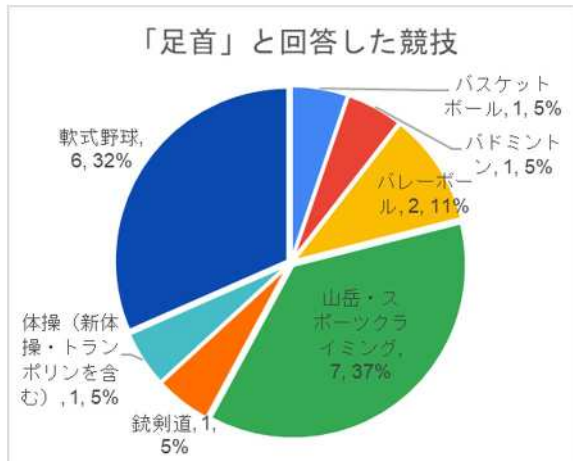
<原因>

- ・練習中の接触・転倒
- ・投球練習
- ・捕球ミス



<原因>

- ・練習中・試合中の接触・転倒
- ・練習による慢性的な屈伸
- ・ジャンプ等膝への負担
- ・成長と筋肉のバランスがとれていない
- ・コーチが子供の筋力を理解していない
- ・練習過多

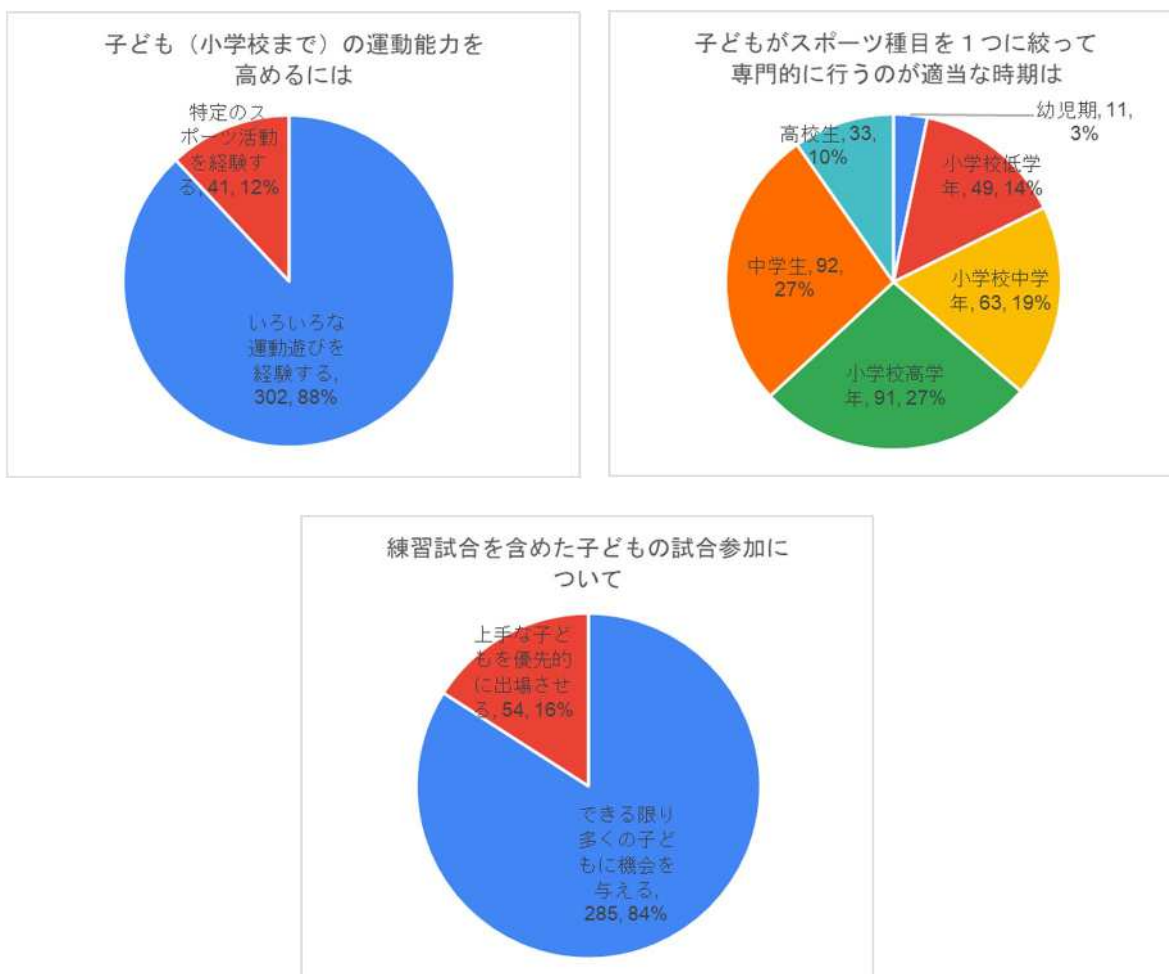


<原因>

- ・練習中・試合中の接触・転倒
- ・練習中の踏み込み、段差の踏み外し
- ・着地ミス (捻った、マット外への落下)
- ・下半身の強化不足、
- ・準備運動及び練習後のケア不足
- ・成長痛
- ・不注意
- ・グラウンドの凹凸

(6) 子どもの運動能力向上や運動指導についての考え

- ・ 9割近い保護者が、小学生段階までは様々な運動遊びをすることが重要と考えている。
- ・ 子どもが種目を1つに絞る時期については意見が割れたが、小学校高学年、中学生とする回答がそれぞれ1/4を超える一方で、小学校中学年・低学年とする回答も一定数ある。
- ・ また、できるだけ多くの子どもたちに出場機会を作りたいとする指導者が8割以上を占める。



(7) その他（ジュニアスポーツについてお気付きのこと）

○クラブ理念

- ・ 運動が好きになって、将来も運動する事を楽しみ、好きな運動や趣味を自分で決めて夢中に取り組める子になって欲しいと思っています。その為の基礎を育んで欲しい。
- ・ 体力作りとしてなのか、好きだからなのか、県代表選手を目指しているのか、将来を見据えているのか等々。
- ・ チームの目的・目指す成果を明確にしておらず、メンバー募集にミスマッチが起きているように思う。求める目的・成果を明確にしないままではマネジメントできないと思うのだが、そこをなあなあに慣習で活動しているので、参加者の納得感にバラツキがあり、不満や不安につながっているように思う。

○クラブ運営

- ・ 指導者の確保が難しい。
- ・ 鳥取は人口が少なく競争相手が特定されている。もっと県外との交流の場を作って欲しい。全国大会出場以外にも、遠征等、県からの助成や協力が増えればありがたいです
- ・ チアリーダーは専門的にできるチームが県西部にはない。選択肢が少ない。
- ・ 地域格差は少なからずある。

○指導者に対して

- ・指導者が罵声を浴びせたりすることがあり、子どもも悪い言葉を使うようになってしま
 - す。
 - ・指導者講習会を定期的に参加していただき、技術面だけではなく、振る舞いについても講習を受けてほしいと思います。
 - ・指導者の質が低い。特にスポーツ少年団。
 - ・昔は当たり前であったが、練習の中に最初と最後のストレッチ等を個人に任せず取り入れるべき。
 - ・いつもたくさんのスタッフさん達に助けられています！いつもありがとうございます！これからもよろしくお願いします！！
 - ・指導していただいていることには感謝していますが、大人の側の意識が昔のままで、精神論的発言をされる方もいます。今の時代に合った指導法を学んでいただきたいと思います。子どもたちに対する指導とは言えない、罵詈雑言に近い言動をしている指導者を見かけたり、話を聞いたりします。
 - ・子どもたちを守るためにも、態度を改めない指導者に出来る限りの行政指導をお願いしたいです。
 - ・スポ少の中には真剣に練習したい子ども、遊び感覚で参加する子どもと同じ練習温度差を感じることもある。子どもの練習態度に対してももっと指導者側から注意して下さってもいいと思う場面がある。
 - ・勝敗だけでなく、相手やチームメイトへのリスペクトを持てるような姿勢を育てて欲しい。
 - ・2つ以上のスポーツをすることを認めながら、他のスポーツに時間をとられることを嫌がる指導者が多いと思います。子供の時も多様な活動を尊重できるようになればよいと思います。
 - ・指導者の勉強不足。
 - ・指導者が自分の経験則で指導を行い、情報をバージョンアップさせていない。特に長時間練習、同一の練習を行えば技術が向上するという間違っただけの指導が現在も横行している。スポーツ少年団で1週間あたり、1日当たりの練習量の制限をきちんとかけ、その中で効率良くかつ効果的な指導を、指導者の方が考えていかななくてはならない状況を強制的にでも作っていただきたい。
 - ・小学生の間は、練習したければする。気分が乗らない時や、やる気の無いときは練習しないなど、ユルい感じでスポーツの方がいいかな？と思う。小学生の頃から、がっちり練習漬けは飽きるのに繋がりそう。
 - ・子供が少ない中、1つのスポーツのチームに属しているため簡単に他のスポーツが体験できるチャンスが無いです。
- 現在はわかりませんが、2年前に上の子供が部活をしていた時は休むことは許されず週5で終わる時間が毎回わからない状態でしていました。ボール拾い等サポートは保護者もやりますが、経験者のコーチがいるにもかかわらず未経験者の保護者に試合の主審・副審を強いられました。子供の指導には毎回、怒鳴り声で指導する等、親として見ていられないほどでした。結局、子供はそのスポーツが楽しくないと言って辞めてしまいました。
- 現在は別のチームに入っているためそのような指導等はなく、子供も楽しんでスポーツをしています。
- ・一般の方が指導者なので、大きな声を出される場合もあり、小学生に対する指導なのかと疑問を抱くときもあります。
 - ・年配の方の指導の考え方が時代に即していないことがあるように感じます。
 - ・勝つことが優先ではなく、特に小学生にはスポーツすることの楽しさやルールを教えてほしい。中学校で他のスポーツをすることも考えられるので。残念ながら所属チームの監督は勝つことしか考えていない。みんなができる野球をしてほしい。
 - ・他校ですが、怒鳴る、罵倒する、連帯責任を負わせるなどあってはならないと思います。人権的配慮のある指導をお願いいたします。
 - ・ルール違反やギリギリの所で試合しているチームがだいたい強いから、見ていて嫌な気持ちになります。人を育ててほしいです。
 - ・子どもは1人ずつ個性も背景も家庭環境も違うので誉めて伸びるのか叱って伸びるのか等見極める必要も大事な事だと思います。
 - ・暴言的な指導はやめてほしい。

- ・小学生の練習には、練習日が多かったり練習時間が長かったりと練習過多を感じています。しかし、チームの方針があるとそれに従っていかねばならず難しさを感じることもあります。
- ・全体的に練習過多のような気がします。
- ・練習時間、日数が少な過ぎる。競争が無い。

○勝利至上主義との向き合い方

- ・勝つ為の団体、楽しむ為の団体、両方あれば取り組みやすいと思います。
- ・どこを目指すかで子どもに対する指導の仕方も変わると思います。小学生の場合、基本的な技術が伴えば、試合にも勝てないし、そうなるとおもしろくなる。過剰な勝利至上主義は、できる子どもだけが試合にでることになり問題とされることがあるが、勝ちに行かなければ、また勝たなければ、そもそもおもしろくなるのでは？
- ・スポーツも勝敗にはこだわりながら、個人の能力や楽しみ方を伸ばしてほしい。
- ・早熟な子が優遇され過ぎ。(結果を求め過ぎ)

○傷害防止

- ・中学生になる前に怪我でリタイアしないための運動後のストレッチや怪我防止のための取り組みについての講演会など。
- ・練習によるケガをさせない取り組みが重要。

○保護者の責任

- ・子供は競技が楽しくてレストとケアをしないから、高校入学までは、保護者がしっかりと、勉強をして、そのアドバイスをする必要がある。レストとケアを怠った事が原因の怪我の場合は、保護者の責任でもあると思います！保護者が参加できる、スポーツケア、日々のマネジメントなどの勉強会があれば、参加できるように呼びかけをしてほしいです！
- ・怪我や暑さ対策が大変であると同時に価値観の異なる保護者間でのトラブルが絶えない。あるいは地域にある公園等でボールの使用が禁止されるなどやる場を大人がどんどん奪っている。

○保護者の負担

- ・保護者の無駄な活動はいらない。(保護者のコーヒー代など)
- ・親の負担が大きい。(送迎、仕事をやりくりして時間を合わせる必要がある)
- ・保護者の役目が多すぎ。
- ・スポーツをするだけでは無い負担(親への負担、スポーツ外での煩雑さ)が多いと、なかなか一步を踏み出せない。
- ・少子化及び入部希望者が減少し、合同チームが多くなり地元以外での練習が増え保護者送迎が多くなり、負担が増加している。そのせいか、入部希望者も減るといふ悪循環が生起している現状。
- ・私たちのスポーツ少年団は、保護者の中から部長や会計を決めてチームの運営を任せられています。子どもの送迎や用具の準備、指導者の昼食準備などもしなければならず、保護者の負担が大きいことが部員減少につながっているように感じます。

○成長の実感

- ・ボクシングを始めてから自分に自信が持てるようになり、なんでもやってみようという姿勢がみられるようになりました。心も身体も強くなっているのが感じられます。

○コロナ対応

- ・子どものスポーツばかりコロナによる制限がかかることは根拠に基づいていない対応であり、早期に是正されるべきと考える。
- ・コロナ禍で、子供たちの練習の場や試合の場が減少しており、非常に残念であります。我慢ばかりの子供たちに少しでも満足や楽しさを伝えられるよう、限られた時間ではありますが、指導者として、親として、試行錯誤中です。

○その他

- ・同じ教室で同じ内容をしていても、指導者や保護者(家族)は個々による関わり(指導目標)はある程度見極める方がよいと思う。
- ・子どもの活動は親の送迎や経済状況などフォローできる環境の有無で全く変わってくると思います。

- ・育成会、部活動とクラブチームの境目がない。
- ・小学生でのスポーツの機会を増やす目標があるのなら、学校の協力を得られる様にしてほしい。
- ・部活動の参加児童数と小学生の体力や運動能力の低下は関係があると思う。
- ・昔のように体を動かして遊ぶ事が難しい環境の中で、小学校の部活動も廃止になりスポーツに触れ合う機会も減っています。クラブチームも部員確保が出来ず運営できない所もあり、ジュニアスポーツが衰退して行っているように感じています。
- ・少子化、子供の意欲、親の負担感により、スポーツをしない子供が増え、チームが成り立たなくなっていると思う。
- ・学校の部活動では、指導内容、練習環境には限界があり、ある程度の成果を出すには、専門的な知識をもった指導者や施設が必要であることを感じました。
広く多くの方に、ジュニアアスリートの制度を知っていただき、参加してもらえることを望みます。より良い環境、設備を整備してもらいたい。
- ・部活動の関係で児童・生徒が先生の対応で傷ついているのを耳にした事がある。
- ・県のガイドラインに沿って時間内にのみ競技をしている子と、さらにクラブチームなどで競技（練習）している子が同じ土俵で勝負するのは問題があると思う。

ジュニアスポーツに係るアンケート票（指導者の皆様へ）

鳥取県スポーツ課

当てはまる番号に ○ をつけるか、回答欄に記入してください。

- (1) ご年齢（ 20代以下 30代 40代 50代 60代 70代 80代以上 ）
- (2) 指導地域（ 県東部 県中部 県西部 ）
- (3) クラブでの指導経験年数
（ 1～5年 6～10年 11～15年 16～20年 21～25年 26～30年 31～35年 36年以上 ）
- (4) 現在、取得している指導者資格や教員免許

<日本スポーツ協会公認スポーツ指導者>

○スポーツ指導者基礎資格： 1. コーチングアシスタント 2. スポーツリーダー

○競技別指導者資格： 3. スタートコーチ 4. コーチ1（旧 指導員） 5. コーチ2（旧 上級指導員）
6. コーチ3（旧 コーチ） 7. コーチ4（旧 上級コーチ） 8. 教師 9. 上級教師

○メディカル・コンディショニング資格： 10. アスレティックトレーナー 11. スポーツ栄養士

○フィットネス資格： 12. フィットネストレーナー 13. スポーツプログラマー

14. ジュニアスポーツ指導員

○マネジメント指導者資格： 15. アシスタントマネジャー 16. クラブマネジャー

<その他>

17. 各競技団体独自資格 _____ 18. 教員免許（ 幼 小 中 高 ）

19. その他 _____

- (5) 指導種目（以下からお選びください）、指導学年、指導頻度・時間

運動・スポーツ種目	活動時期	頻度	時間
(例) 番号（ 2 ）、（ 年長 ）から（ 小4 ）まで週に（ 2 ）回、平均（ 180 ）分/回			
番号（ ）、（ ）から（ ）まで週に（ ）回、平均（ ）分/回			

※番号 45（その他）の場合の競技名 _____

<運動・スポーツ種目一覧>

<p><球技></p> <ul style="list-style-type: none"> 1. サッカー 2. テニス 3. ソフトテニス 4. ホッケー 5. バレーボール 6. バスケットボール 7. ハンドボール 8. 卓球 9. 硬式野球 10. 軟式野球 11. ソフトボール 12. バドミントン 13. ラグビー 14. ボウリング 15. ゴルフ 16. グラウンド・ゴルフ 17. ドッジボール 	<p><ウォータースポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 18. 水泳（競泳・飛込、水球） 19. ボート 20. セーリング 21. カヌー <p><ウィンタースポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 22. スキー 23. スケート 24. アイスホッケー <p><武道></p> <ul style="list-style-type: none"> 25. 相撲 26. 柔道 27. 弓道 28. 剣道 29. 空手道 30. 銃剣道 31. なぎなた 32. 少林寺拳法 	<p><格闘技></p> <ul style="list-style-type: none"> 33. ボクシング 34. レスリング <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 35. 陸上競技（トラック・フィールド・マラソン） 36. 体操（新体操を含む） 37. ウエイトリフティング 38. 自転車競技 39. フェンシング 40. ライフル射撃 41. 山岳・スポーツクライミング 42. アーチェリー 43. クレー射撃 44. トライアスロン 45. その他
---	--	---

- (6) あなたのクラブで、ケガや障害の発症予防に向けて取り組まれている（指導されている）こと（特に重視しているものを3つまで）

<ul style="list-style-type: none"> 1. 適切な用具の使用（靴など） 3. 体力に応じた練習量・質の設定 5. 自発的・自主的活動の指導 7. 試合数の抑制 9. 終了後のアイシング 11. 十分な休息・睡眠時間の確保 13. その他 	<ul style="list-style-type: none"> 2. スポーツ前のストレッチやウォーミングアップ 4. 競技レベルに応じた指導 6. オーバートレーニングの回避 8. 定期的な休息、適切な水分・塩分補給 10. 規則正しい生活習慣の育成 12. 適切な栄養の摂取
---	--

(7) 子どもの運動能力向上や運動指導についてのあなたのお考え

①子ども（小学校まで）の運動能力を高めるには、

1. いろいろな運動遊びを経験する
2. 特定のスポーツ活動を経験する

②子どもがスポーツ種目をひとつに絞って専門的に行うのが適当な時期は、

1. 幼児期
2. 小学校低学年
3. 小学校中学年
4. 小学校高学年
5. 中学生
6. 高校生

③練習試合を含めた子どもの試合参加について

1. 上手な子どもを優先的に出場させる
2. できる限り多くの子どもに機会を与える

(8) 子どもにスポーツを指導する上で参考にしているもの（複数回答可）

1. 資格取得時の講習のテキスト	2. 資格取得後に開催される資格に関する研修会等
3. 日本スポーツ協会の少年スポーツ情報誌「スポーツジャスト」	
4. 専門書や指導参考書等	5. 専門のビデオやDVD
6. 各競技団体が行う研修会・講習会等	
7. 指導者同士の自主的な勉強会等	8. 他の指導者の実践内容
9. インターネットによる情報収集	10. 自分のスポーツ経験
11. その他	

(9) スポーツ指導者等に対する講習会への参加意向について

※（公財）鳥取県スポーツ協会では、国民体育大会及び国体中国ブロック大会帯同トレーナー資格取得の為に講習会を年間4回（1回6時間）実施しています。（スポーツトレーナー概論、スポーツ障害・外傷論、ドーピングの基本知識、応急処置の基礎知識等） ※資格取得には、加盟競技団体推薦が必要です。

1. 資格取得・更新の為に参加したい
2. 自己啓発の為に参加したい
3. 参加しようと思わない

(10) クラブの中で子どもたちを健全に育成していく上での課題（自由記述）

--

【自由記述欄】

--

ご協力ありがとうございました。

ジュニアスポーツに係るアンケート票（保護者の皆様へ）

鳥取県スポーツ課

当てはまる番号に ○ をつけるか、回答欄に記入してください。

- (1) お子様のご年齢 () 歳
- (2) 競技地域 (県東部 県中部 県西部)
- (3) 競技年数
(1～2年 3～4年 5～6年 7～8年 9～10年 11～12年 13～14年 15年以上)
- (4) 競技種目 (以下からお選びください)、練習頻度・時間

運動・スポーツ種目	活動時期	頻度	時間
(例) 番号 (2)、週に (2) 回、平均 (180) 分/回			
番号 ()、週に () 回、平均 () 分/回			

※番号 45 (その他) の場合の競技名 _____

<運動・スポーツ種目一覧>

<p><球技></p> <ul style="list-style-type: none"> 1. サッカー 2. テニス 3. ソフトテニス 4. ホッケー 5. バレーボール 6. バスケットボール 7. ハンドボール 8. 卓球 9. 硬式野球 10. 軟式野球 11. ソフトボール 12. バドミントン 13. ラグビー 14. ボウリング 15. ゴルフ 16. グラウンド・ゴルフ 17. ドッジボール 	<p><ウォータースポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 18. 水泳 (競泳・飛込、水球) 19. ボート 20. セーリング 21. カヌー <p><ウィンタースポーツ></p> <ul style="list-style-type: none"> 22. スキー 23. スケート 24. アイスホッケー <p><武道></p> <ul style="list-style-type: none"> 25. 相撲 26. 柔道 27. 弓道 28. 剣道 29. 空手道 30. 銃剣道 31. なぎなた 32. 少林寺拳法 	<p><格闘技></p> <ul style="list-style-type: none"> 33. ボクシング 34. レスリング <p><その他></p> <ul style="list-style-type: none"> 35. 陸上競技 (トラック・フィールド・マラソン) 36. 体操 (新体操を含む) 37. ウエイトリフティング 38. 自転車競技 39. フェンシング 40. ライフル射撃 41. 山岳・スポーツクライミング 42. アーチERY 43. クレー射撃 44. トライアスロン 45. その他
---	---	---

- (5) この2～3年で、お子様がケガやスポーツ障害を負われた場合、その内容について教えてください。(複数あれば2つまで)

例) 部位：ひざ 内容：関節痛 原因：練習過多

部位：
内容：
考えられる原因：

部位：
内容：
考えられる原因：

(6) 子どもの運動能力向上や運動指導についてのあなたのお考え

①子ども（小学校まで）の運動能力を高めるには、

1. いろいろな運動遊びを経験する
2. 特定のスポーツ活動を経験する

②子どもがスポーツ種目をひとつに絞って専門的に行うのが適当な時期は、

1. 幼児期
2. 小学校低学年
3. 小学校中学年
4. 小学校高学年
5. 中学生
6. 高校生

③練習試合を含めた子どもの試合参加について

1. 上手な子どもを優先的に出場させる
2. できる限り多くの子どもに機会を与える

【自由記述欄】

ご協力ありがとうございました。